

みんななかまさ!

〈 きれいはいのプログラム 〉

しかい : かなざわ けいこ

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 2、みんなで歌ううた | ♪「このゆびとまれ」P.31 |
| 3、みんなでいのる | 主のいのり P.92 |
| 4、みんなで読むせいしょ | マルコによる福音書第16章1-8節 |
| 5、みんなで歌ううた | ♪「アーメン アーメン アーメン」P.3 |
| 6、みんなで聞くおはなし | 「いのちまもれや まもれやいのち」すがさわ くにあき |
| 7、みんなで歌うさんびか | 讃美歌467番♪「おもえばむかし」P.76 |
| 8、けんきん | ♪「いまそなえる」P.92 |
| 9、しずかなこころ | |

〈今日の活動〉 イースターたまごであそぼう

〈 ほうこく 〉

29日(日)は、「はるのななくさ」でした。セリ(芹)、ナズナ(薺)、ゴギョウ(御形)、ハコベラ(繁縷)、ホトケノザ(仏の座)、スズナ(菘)、スズシロ(蘿蔔)。春の七草は、「七草がゆ」にして食べるなど、「食」を楽しむものですが、秋の七草は、花を「見る」ことを楽しむものようです。絵本「カラスノエンドウのたねがとんだ(かがくのとも2024年6月号)」(著:高柳芳恵、画:大橋慶子/福音館書店、2024年)を読んでいただきました。カラスノエンドウはあちこちで見かける“雑草”です。つるを伸ばして近くのものに巻き付くので、こもりした茂みになります。6月頃の晴れた日になると、その茂みからパチパチという音が聞こえます。カラスノエンドウが種をはじき飛ばす音です。足下をよく見ると丸い種がいくつも落ちていることに気づくでしょう。カラスノエンドウが面白いのは、サヤを指でつまむとパチンと音がして、その種を飛ばせることです。



活動は、園庭の満開の桜の木の下で、一句。「かんじって、なんもじ?」など、面白い質問が飛び交うなか、五・七・五の俳句を、頭をいっぱいひねって考えました。おやつは、もちろん「桜もち」でした。

〈 こどもといのる 〉

まだもう少し寒い日が続いていますが、子どもたちみんなが元気に過ごすことができますよう、祈ります。(やまじ だい)

〈 おしらせ 〉

◇4月29日(水、祝)は、「みんなでカレーパーティ」です。お知らせを読んで、申し込んでください。

牛乳パックを集めています。集まった牛乳パックは「おかえりティッシュ」「ただいまロール」になります。牛乳パックは、44878枚から 25枚 集まりました。合計 44903枚 になりました。2016年5月末に80000枚に到達し、2016年6月より新たにカウントをスタートしています。

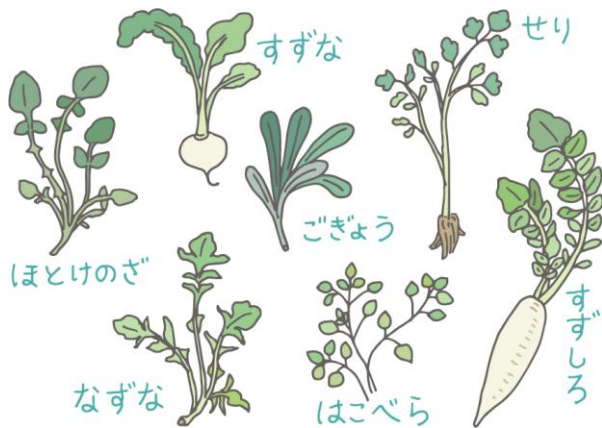
2026年3月29日(日)

3月生まれの誕生日

3月10日 森さき

3月13日 濱ようた

3月29日 吉良あきと



はるいつだ	おしえてくれる	さくらがね	(戸谷しゅうすけ)	さくらさく	さくらがさいた	きもちいい	(武澤こうた)
はるとして	さくらをみると	よいきもち	(野村みなと)	さくらさき	ひらひらおちる	きれいだな	(佐藤いちか)
さくらさく	みどりのえんき	はるうらら	(松本なつこ)	ランドセル	さくらのしたで	いろゆたか	(前田ひろし)
さくらさく	みんなでさくら	そだてるよ	(本間ともひろ)	はなひろい	さくらがつせん	はじまるよ	(坂本ようすけ)
さくらばな	おさらんさいて	きれいだな	(上野きりか)	さきほこれ	さくらまんかい	はるのあさ	(三丸わか)
さくらさく	だんごをたべる	こんえんで	(松本ゆきひろ)	いちりんを	われをわれをと	おうさくら	(菅澤くにあき)
あたたかな	かぜにゆられて	ふくふくと	(石田まゆみ)	まんかいの	げんきにさわぐ	こどもたち	(福中はる)
さくらばな	きれいにさいて	まんかいだ	(佐藤たいすけ)	ひらひらと	さくらははなが	まいおちる	(篠田ちはる)
さくらさく	あおぞらこども	うれしいな	(前田さだえ)	さくらさく	はるのゆうびん	とどいたよ	(金澤けいこ)
さくらばな	うえからみれて	うれしいな	(岡田ろく)	はるがきた	ふとみかけたよ	さくらたち	(岡田ふうこ)
きれいだな	はなびらきれい	いいさくら	(川崎はるき)	さくらみて	さくらがさいて	きれいだよ	(杉本ゆうき)
さくらみて	さくらでいっく	できたかな	(山地だい)	さくらさく	あかるいひぎし	むねおどる	(守屋ひろこ)
まんかいの	さくらのしたで	ランドセル	(戸谷りこ)	さくらちる	いっばいちって	うまったよ	(本間ゆうせい)
まんかいの	さくらのしたで	おはなみだ	(吉岡あかり)	さくらさく	みんなのさくら	さくらのき	(玉田かずま)
さくらさく	あたらしいはる	ピンクいろ	(脇本たけのり)	しながつき	かたよせあつて	さくさくら	(二宮ゆりこ)
ながれるる	さくらのゆくえ	といにけり	(坂本たくみ)	えんていの	さくらをみたら	げんきでる	(脇本さく)
さくらさく	しゅわのはなさく	ことともに	(児玉みちこ)				

第一六章 「さて、安息日が終ったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサロメとが、行ってイエスに塗るために、香料を買い求めた。そして週の初めの日に、早朝、日の出のころ墓に行った。そして、彼らは「だが、わたしたちのために、墓の入口から石をころがしてくれるのでしょうか」と話し合っていた。ところが、目をあげて見ると、石はすでにころがしてあった。この石は非常に大きかった。墓の中にはいると、右手に真白な長い衣を着た若者がすわっているのを見て、非常に驚いた。するとこの若者は言った、「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのであろうが、イエスはよみがえって、ここにはおられない。ごらんなさい、ここがお納めした場所である。今から弟子たちとペテロとの所へ行つて、こう伝えなさい。イエスはあなたがたより先にガラヤへ行かれる。かねて、あなたがたに言われたとおり、そこでお会いできるであろう」と。女たちはおののき恐れながら、墓から出て逃げ去った。そして、人には何も言わなかった。恐ろしかったからである。